東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 5 月 15 日

社会を破滅させるウイルス：不義

親愛なるムスリムの皆様。道徳や法の秩序や、啓示による他の教えが誤りであり恥ずべき行為であり悪であると見なしている行為である不義・姦通は、イスラームの教えにおいても絶対的に禁じられ、大きな罪の一つとされています。姦通を行なったことが証明された場合には、それを行なった男女には肉体的な刑罰が定められています。

アッラーはクルアーンで、姦通について次のように仰せられています。「私通（の危険）に近付いてはならない。それは醜行である。憎むべき道である」（夜の旅章第３２節）

アッラーは、ご自身が創造された人間について非常によくご存知であられます。「ハラームを犯さないように」とは仰せられず、あたかも次のように命じられているのです。「ハラームの穴のまわりをうろうろしてはいけない。うろうろしていれば、姦通の危険に近づけば、二度と自分をそこから救い出すことはできない」

親愛なるムスリムの皆様。姦通は人を、肉体的快楽のとりことします。治療の困難な病気が広まったり、凶悪犯罪が行なわれたりする要因となります。血筋がたどれなくなったり、家庭が崩壊したり社会が破滅したりすることをもたらします。合法ではない結びつきから生まれた子供は、家庭のよい環境や両親のしつけを手にすることができず、道徳的な弱さを持っていることがあり得ます。この道徳的弱さによって、社会では窃盗、不正、殺人などの悪い行為が広まります。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。イスラーム学者は、不義にはいくつかの種類が存在することを示しています。生殖器による不義以外にも、手、舌、目、足、そして心による不義について言及しているのです。事実、ハディースでは次のように語られています。「人間には不義からの取り分が定められている。人間は必ずそれに至る。目の不義は見ることであり、耳の不義は聞くことであり、舌の不義は語ることであり、手の不義はつかむことであり、足の不義は歩くことである。心はといえば、それは求めるのだ。生殖器はそれを実現するか、無にするかである。」

御光章では次のように仰せられています。「男の信者たちに言ってやるがいい。「（自分の係累以外の婦人に対しては）かれらの視線を低くし、貞潔を守れ。」それはかれらのために一段と清廉である。アッラーはかれらの行うことを熟知なされる。信者の女たちに言ってやるがいい。かの女らの視線を低くし、貞淑を守れ。外に表われるものの外は、かの女らの美（や飾り）を目立たせてはならない。（御光章３０～３１節）ここでは特に、目を禁じられたものからそらすことが指摘されています。なぜなら見ることは、不義へと招く最も危険な行為であるからです。「見ることによって何が生じるだろうか」と言ってこの点を重要視しない人は、結果として大きな災いに直面するかもしれません。意志を伴わずに「目にする」ことについては人は責任を問われません。しかし自ら望みつつ何度も何度も見ることは禁じられているのです。このことについて預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますよう）は次のようにおっしゃられています。「一度目に見ることはあなたのためのものだが、二度目に見ることはあなたのためにならない」

健全でよい徳を備え、安定した集団として生きるためには、私たちの自我、そして責任を負っている家族の人たちを不義から、そして不義へと人を導く道から守りましょう。彼らにこのことを教えましょう。今日のフトバを、意義深い神の警告によって締めくくります。「また公けでも隠れていても、醜い事に近付いてはならない」（家畜章１５１節）